

人口12年連続で減少

昨年10月推計 沖縄は復帰後初

総務省は12日、昨年10月1日現在の人口推計を発表した。外国人を含む総人口は、前年の2021年10月より55万6千人減の1億2494万7千人だった。12年連続の減少で約30年前の水準になった。2年ぶりに

人口増に転じた東京をのぞく46道府県で減った。沖縄が減少したのは、日本に復帰した1972年以降で初めて。▼3面▶少子化対策効果出ず

総人口の減少率は0・44%で、減少数、減少率ともに過去最大だった21年に次ぐ水準だった。日本人は75万人(0・61%)減の1億2203万1千人で、11年連続で減少幅が拡大した。外国人は19万4千人(7・1%)増の291万6千人だった。外国人の入国者数から出国者数を差し引いた社会増減は、19万1千人増で2年ぶりの増加に転じた。年齢別では、15歳未満が11・6%、労働の担い手とな

る15〜64歳の「生産年齢人口」は59・4%で、ともに過去最低の割合だった。出生数の減少傾向が続いて少子化に歯止めがかかっていないことが理由だ。65歳以

上は29・0%、75歳以上に限ると15・5%で、それぞれ過去最高の割合だった。

男女別人口は、男性が6075万8千人で、前年比26万1千人減、女性が6418万9千人で、29万4千人減った。男性は15年連続、女性は12年連続で減少した。女性100人に対する男性の数(人口性比)は94・7で、女性が男性より343万1千人多い。(榊原一生)

少子化 止まらぬ人口減

増加は東京のみ 対策の効果出ぬまま

人口減少が止まらない。総務省が12日発表した昨年10月1日現在の人口推計では、外国人を含む総人口は12年連続で減り、日本人に限ると、福井県の人口に相当する75万人が減った。少子化を背景に今後も同様の傾向は続く。▼1面参照

47都道府県のうち総人口が増えたのは東京だけだった。人口は2万8千人（0・2％）増の1403万8千人と2年ぶりに増加に転じたが、年間の出生数と死亡数を比べた「自然増減」では4万1千人減。都外からの転入などによる「社会増減」が6万9千人増だったことで補った。

一方、これまで「自然増」を続けていた沖縄は返還後の1972年以降で初めて減少に転じた。自然減を合わせ、人口は145万人の146万8千人だった。「社会増」は前年は8府県だったが北海道や宮城、東京、愛知、京都などが加わり、21都道府県に増えた。

人口が今と同じ1億2400万人合だった93年は、経済活動の中心となる15〜64歳の人は人口の69・8％を占めていたが、22年は59・4％に減った。0〜14歳は2084万人から1450万人に減り、人口に占める比率は16・7％から11・6％に下がった。若い人が減れば、生まれる子どもの数も減り、その流れは強まっていく。一度減り始めた人口を増やすことは簡単ではない。

1人の女性が一生の間に産む子どもの数を示した「合計特殊出生率」は2・07を上回らなければ現在の人口を維持することはできないとされる。政府は1990年から少子化対策に取り組み始めたが、思うような効果は出ず、21年時点では1・30だった。

岸田文雄首相は「異次元の少子化対策」を唱え、子育て世代への経済的支援や保育の拡充、育休の取得支援などを通じて人口問題に向き合うが、対策が効果を上げて、人口が増加に転じるには、長い時間が必要になる。

人口問題に詳しい鬼頭宏・上智大名誉教授は、「少子化対策を進める一方で、人口減少を前提とした社会をつくるのが急務だ。病院や役所などの生活インフラを都市の中心に集中させる『コンパクトシティ』の整備などを加速させる必要がある」と話す。

| 21年比(%) | 人口(万人) |
|---------|---------------|
| 全 国 | ▼0.44 12494.7 |
| 北海道 | ▼0.82 514.0 |
| 青 森 | ▼1.39 120.4 |
| 岩 手 | ▼1.32 118.1 |
| 宮 城 | ▼0.44 228.0 |
| 秋 田 | ▼1.59 93.0 |
| 山 形 | ▼1.31 104.1 |
| 福 島 | ▼1.20 179.0 |
| 茨 城 | ▼0.43 284.0 |
| 栃 木 | ▼0.65 190.9 |
| 群 馬 | ▼0.69 191.3 |
| 埼 玉 | ▼0.05 733.7 |
| 千 葉 | ▼0.15 626.6 |
| 東 京 | 0.20 1403.8 |
| 神 奈 川 | ▼0.04 923.2 |
| 新 潟 | ▼1.12 215.3 |
| 富 山 | ▼0.87 101.7 |
| 石 川 | ▼0.67 111.8 |
| 福 井 | ▼1.00 75.3 |
| 山 梨 | ▼0.43 80.2 |
| 長 野 | ▼0.65 202.0 |
| 岐 阜 | ▼0.77 194.6 |
| 静 岡 | ▼0.70 358.2 |
| 愛 知 | ▼0.29 749.5 |
| 三 重 | ▼0.77 174.2 |
| 滋 賀 | ▼0.11 140.9 |
| 京 都 | ▼0.45 255.0 |
| 大 阪 | ▼0.27 878.2 |
| 兵 庫 | ▼0.55 540.2 |
| 和 歌 山 | ▼0.72 130.6 |
| 鳥 取 | ▼1.13 90.3 |
| 島 根 | ▼0.91 54.4 |
| 徳 島 | ▼1.05 65.8 |
| 高 松 | ▼0.74 186.2 |
| 岡 山 | ▼0.72 276.0 |
| 山 口 | ▼1.06 131.3 |
| 徳 島 | ▼1.14 70.4 |
| 香 川 | ▼0.87 93.4 |
| 愛 媛 | ▼1.09 130.6 |
| 高 知 | ▼1.22 67.6 |
| 福 岡 | ▼0.15 511.6 |
| 佐 賀 | ▼0.64 80.1 |
| 長 崎 | ▼1.06 128.3 |
| 熊 本 | ▼0.57 171.8 |
| 大 分 | ▼0.68 110.7 |
| 宮 崎 | ▼0.84 105.2 |
| 鹿 児 島 | ▼0.87 156.3 |
| 沖 縄 | ▼0.01 146.8 |

2022年10月1日現在の都道府県別推計人口と前年比増減率

総務省まとめ。▼はマイナス